



奥州市域の資料の紹介と 連携事業への期待

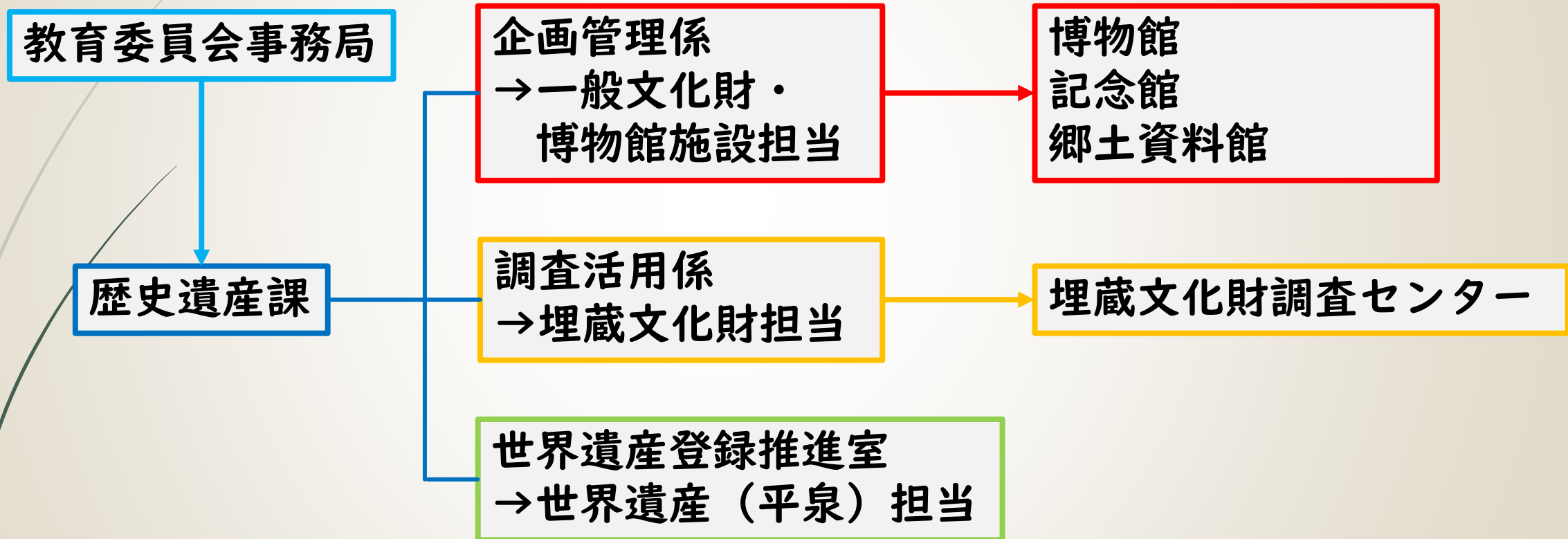
奥州市教育委員会 高橋和孝

岩手県奥州市について



平成18年に2市2町1村が合併して誕生

文化財セクションの体制



奥州市の課題認識

■ そもそも資料の残存量が多い

数千点単位での発見は毎年

→市管理の文書史料だけで15万点以上

■ 「平常時」の資料減失の増加（≠自然災害）

根本的には人口減少が原因

→資料の管理者がいなくなる

→資料の管理場所がなくなる

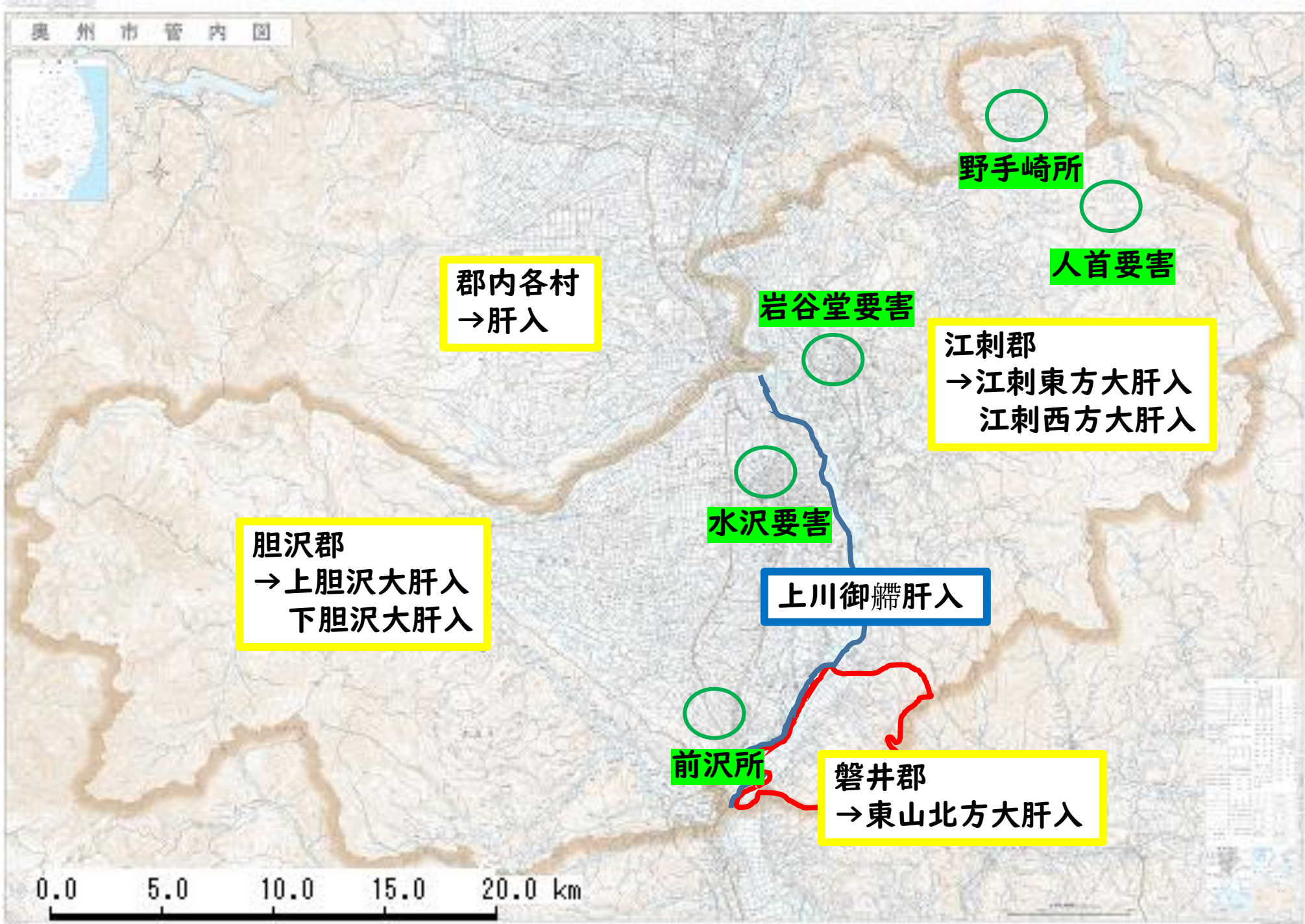
■ 未整理史料群の整理・台帳化

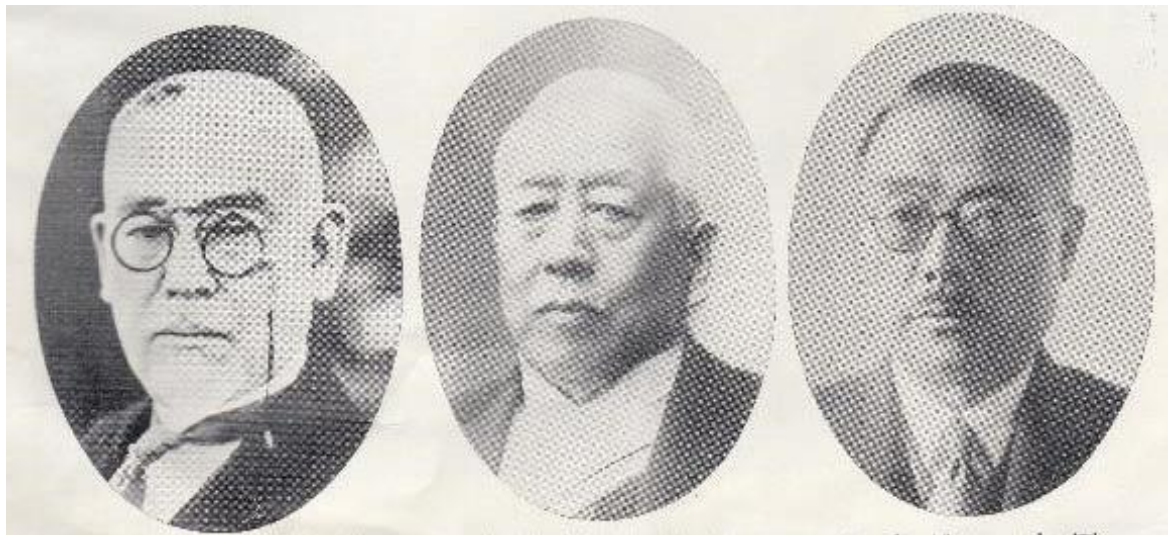
旧自治体時代に受け入れた未整理史料群をフォンドレベルで把握する必要

→アイテムレベルまでいきなり目録化できる状態にない

…令和2年度調査：未整理で調査予定の立たない文書は4万点以上







後藤新平

齋藤實

郷古潔

「創立30周年記念号 水商の概況」より
(『及川藤四郎・梅代文書』)



小沢佐重喜

(写真『及川藤四郎・梅代文書』)



椎名悦三郎・素夫

(写真『椎名家資料』)

明治

大正

昭和

平成

記録史料の調査

○政治家

・大臣

斎藤實・春子関係文書

後藤新平関係文書

椎名家資料(椎名悦三郎・素夫)

・国会議員

猪狩八郎文書(猪狩家資料の内)

高橋金治文書(旧高橋家文書の内)

・地方議員

中林弥平文書(水沢町議会議員)

及川梅代文書(水沢市議会議員)

○官僚

入間野武雄関係文書(総理秘書官)

佐伯郁郎文書(内務官僚)

佐嶋與四右衛門文書(建設官僚)

○研究者

木村栄文書(天文学者)

小野寺直助関係資料(医学者)

高橋萬右衛門文書(旧高橋家文書の内、農学者)

小林晋一文書(郷土史家)

菊地権吉文書(郷土史家)

○実業家など

高野長経文書(旧高野家文書の内、医師)

安倍泰三文書(旧安倍家文書の内、医師)

八幡恭助文書(八幡家資料の内、日本棋院理事)

佐藤半兵衛文書(実業家)

・・・すべてが相互に関連

→地域に残されているからこそ分かる

連携事業の推進

■ 資料の数が膨大過ぎる

→市の予算で全ての史料群をアイテムレベルで整理・調査するのは不可能

→ISAD (G) の考え方を導入・段階的整理論の徹底

→フォンドレベルでの把握を優先

例：公有古文書等歴史史料の調査 (R2～)

■ 人員が不足している

→学術機関との連携

これまでの連携先：岩手大学、東北学院大学

→科研費等外部予算での調査

⇒産学官連携事業の開始 (R2～)

産学官連携事業への期待

■ 学術的なバックアップ

→保存整理などについて多様な視点からのアドバイスが必要

■ もしもの時のために

→自然災害時や、平常時の資料レスキューの通報先として

■ 普及活動への支援

→市外の視点から市内の資料を評価することが地域のモチベーションに

■ 調査体制の広域化

→市外史料群調査での連携



ご清聴ありがとうございました！